

藤沢工場 50 周年記念によせて

大 井 敦 夫

取締役 執行役 専務
風水力機械カンパニープレジデント

藤沢工場が操業開始から50年という節目を迎えるにあたり、これまでの活動を振り返ってみて、改めて大きな感慨を覚えます。この50年の間に当社を取り巻く情勢は幾度となく大きな変化がありました。その時々時代のニーズに対応する製品を、日本を始め世界各地に提供し続けることができたのも、お客様や代理店、協力会社の皆様をはじめとする関係各位のお力添えの賜物であると心から感謝申し上げます。

さて、藤沢工場とポンプ事業の歴史から、特徴的な四つの出来事を振り返ってみたいと思います。一つ目は1965年に藤沢工場が標準ポンプの量産工場として操業を開始したことです。東京オリンピック後のいざなぎ景気を迎え、ビル建設ラッシュや農業振興、新幹線・高速道路等の公共投資に続き、民間投資も活発になり、標準ポンプの需要が高まっていた時代でした。同工場設立の10年前（1955年）から、川崎工場で小規模に製造していた標準ポンプについて大量生産、大量販売を計画し、生産・販売の両面で改革が進められました。生産面では加工専用機など最先端設備を導入し、大量生産を可能としました。加えて、販売面では当時としては画期的な代理店販売システムを構築し、大量販売の礎を作り上げました。これらは、現在の販売ネットワークの基盤となっているといえます。

二つ目は1973年に社長直轄のプレス加工プロジェクトが発足したことです。次世代の標準ポンプ材料の候補であったステンレスプレス材において、生産技術および材料の開発を進め製品化に成功しました。この技術・製品は、国内では1990年代に販売を開始した給水ユニットの開発に繋がります。そして、1989年に設立したエバライタリア（現Ebara Pumps Europe S.p.A.）の主力製品へと繋がり、海外展開に弾みをつけることができました。

三つ目は、私が入社した当時（1981年）、標準ポンプの開発が強化され、ナイロンコーティングポンプ等の多

くの新製品をリリースしたことです。新市場の開拓には、技術部門と営業部門が連携して積極的に営業活動に取り組んできました。その一つとして、1978年に、豪華な内装で一世を風靡したクルーズ客船「さんふらわあ号」を借り切り、販売代理店や顧客を招待して日本全国を巡った展示会の開催が挙げられます。この取り組みにより、当社の標準ポンプの知名度が上がるとともに、未対応だった分野の市場ニーズを把握し、新製品の開発へ繋げることができました。これら新製品は市場ニーズを的確に反映しただけでなく、各製品の要素技術の完成度が高く、現在でも当社の主力製品として活躍しています。

四つ目は、1986年に川崎工場を藤沢工場に統合し、プロセスポンプや高圧ポンプ等のカスタムポンプの開発や生産を開始したことです。藤沢工場では肥料プラント向けカーバメートポンプ等、数多くの新製品や新技術を開発しました。同工場で培われた技術は富津工場に受け継がれ、カスタムポンプに係る基盤技術となっています。

当時の設計者の先見性と技術力は高く、創業の精神である「熱と誠」を実践した行動は、今の私たちがしっかりと継承していかなければなりません。

最後に、藤沢工場にまつわる思い出深いエピソードとして、1991年に天皇陛下がご来訪されたことが挙げられます。当社グループの社員全員が大変な名誉を感受する中、藤沢工場が一体となって天皇陛下をお迎えし、お言葉を頂き大変励みになったのが忘れられません。

こうした50年間の藤沢工場の足跡をたどってみると、操業開始からの取り組みが現在の藤沢工場とポンプ事業の基盤となり、ポンプの生産工場としては世界有数の規模を誇るに至ったと考えます。さらに世界トップクラスの生産技術の導入や研究開発により作り上げられた製品を世界に送り出すという、マザー工場として機能してきたことを実感します。

これからも、マザー工場としての機能を一層強化し、

日本独自の高い品質を世界中へ発信し続けることが私たちの使命であると考えます。そして、更なる50年に向けてこれまで培ってきた「ものづくり」の経験を土台にし

て、全社員が一丸となり新たな力強い一歩を踏み出してみたいです。

